

3Rに取り組みよう

■概要

3Rについて学習し、今していること・やってみたいこと・疑問に思っていること等を書き発表する。

※3R（スリーアール）は、①発生抑制（リデュース(Reduce)；減らす）、②再使用（リユース(Reuse)；繰り返し使う）、③再生利用（リサイクル(Recycle)；再資源化する）の3つの頭文字をとったもので、循環型社会構築に関するキーワード。

■ねらい

- ・3Rについて、していること、やってみたいことを互いに出し合うことにより、参加者の意識の共有をはかり、互いの実践を確認しあう。
- ・3Rに対する興味・関心をうながす。
- ・人前で発表するという活動を通じて、他人に対して自分の意見を話せる発表能力を養う。

■準備物

- 調査用紙
- 筆記用具、マジック
- 模造紙
- アンケート用紙

■進め方

活動	時間	内 容	注意事項
導入	5分	3Rについて、知っているかどうかを問う。	小学生の場合、3Rが英語なので、指導者から説明。
作業等	75分	<ul style="list-style-type: none"> ・調査用紙配布。 ・調査用紙に3Rについて、家でしていること、やってみたいことを書く。 ・各自が調査用紙に書いた内容をグループの中で互いに発表する。 ・発表後、互いに質問を出し合う。 ・全体発表をするための準備をする。 発表者を決め、どんな発表をするか相談する。(みんながしていた取組、ユニークな取組など) ・発表のための資料を作成する。 発表の仕方は自由にした方が、創意工夫をした発表が期待できる。(例：表形式・新聞形式・劇仕立など) 	<p>発表前に、ルール（意見を批判しない）を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の様子を見ながら内容、作業時間を調整する。 ・「どうすれば人の関心を引くことができるか」「印象に残るような発表の仕方は？」というような発表の仕方にも工夫するよう、各グループへ働きかける。

<p>まとめ 40分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表順を決める。発表ルールの説明。 ・発表、質問 ・他の人の話を聞くことで新たな発見があること、取り組みを一つ一つ積み重ねていくことの重要性を認識させる。 ・「リサイクルが一番大事」と思っている人が多いが、リサイクルより前にできること、リサイクルよりもっと効果的なことがたくさんあることを認識する。 ・アンケートの記入 	<p>進行役は指導者でも子どもの代表でも良いが、あらかじめ決めておく。他グループが発表する時は、おしゃべり厳禁。必ず質問を受ける。</p>
---	---

(授業の場合 導入・作業等・まとめ 45分×3)

注意事項：・こどもの年齢や集団の人数によって、一つ一つの作業にかかる時間が違ってくるので、あらかじめ所要時間を想定し、少し余裕を持ってプログラム構成を行う必要がある。

・このプログラムはこれからの取り組みの出発点とするためのものなので、「それは Reuse ではない。」といった内容の正誤にはあまりこだわらないように注意する。

■解説

このプログラムは、ふだん家庭でもしている身近な取り組みを整理すると同時に、他人の取り組みを参考にして「これなら自分でもできる」といったような取り組みを情報収集し、自分たちの活動を広げていくためのものである。

また、行動につながる出発点のプログラムでありこれで完結するものではないので、内容をきれいにまとめてしまう必要はない。参加者が「よし、今日からこんなこともしてみよう。」という気持ちになれば大成功である。

リサイクル (recycle) が環境問題 (とりわけごみ問題) では最も大事だとよく言われているが、エネルギーコスト面から見るとリサイクルには相応のエネルギーを費やさなければならず、リサイクル社会自体が大量消費・大量廃棄を前提とした考え方である。省エネを目指すためには、reduce・reuse といった行動を通して、まずゴミを出さない社会を作ることが大切で、そのために自分には何ができるかということを考えさせるためのプログラムである。